

Ryohei OBATA
Their Breathing
2020-2025

日々、あらゆる人々（や人以外のものたち）による様々な行為や行動が、世界中で同時に、膨大に、私たちの把握を遥かに超えて起こっています。しかし、それらの行為や行動のほとんどは日常の些細な営みであり、ひとつひとつの行為の詳細はどこにも明確に記録されることはなく、いつのまにか、それが本当に実際に行われたことであつたのかすら曖昧になっていってしまいます。

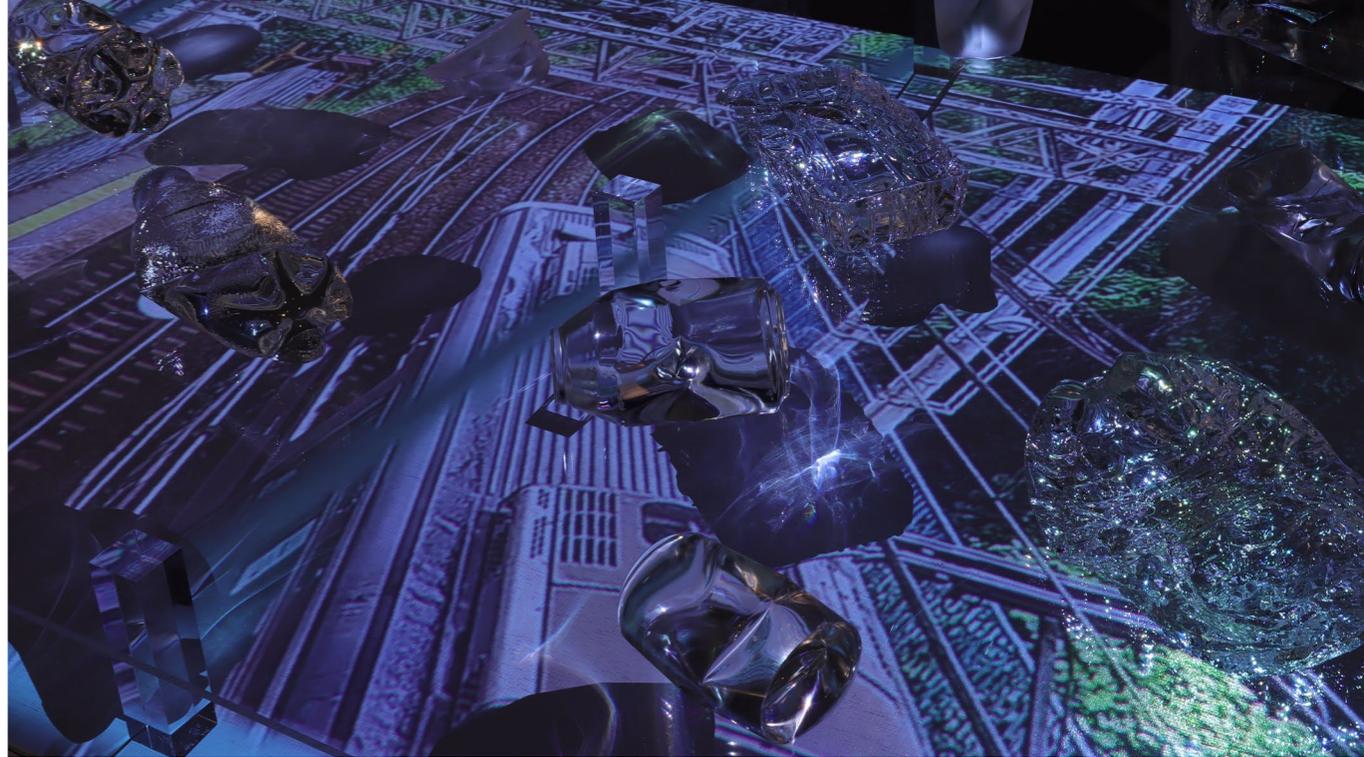
現在、私たちは刻一刻と変化する社会状況の中で日々を生きています。しかし、例えば「パンデミック」や「戦争」、「災害」などとといった大きく一括りに表現された言葉からは、私たち一人ひとりが実際にどのような暮らしを営んでいるのかはなかなか見えてきません。どのような状況においても私たちは毎日を生活しているし、そのために日々いろいろな行為や行動を行っています。そしてそれらの大半はとても些細な動作です。

コロナ禍をきっかけとして制作を始めた《Their Breathing（行為の気配）》は、誰かに捨てられたごみの形状を主題にしており、他者の行為の痕跡が残された物品からその形状だけを抽出することで、見えなくなった他者の存在を感じ、それらの行為に宿る気配を探り出そうと試みています。道端に落ちている見知らぬ他者が残したごみの中に透明なシリコン樹脂を流し入れ、ごみの形を写し取った立体作品を制作し、それらを再び元の場所に戻し記録するプロジェクトです。

ごみなどの、人の手を離れた物品を採集する時、大抵はそこに元の所有者の姿はありません。しかしそれらの物品には、いつか誰かが確かにそこに存在し、そして何かしらの動作を行った瞬間があつたのだ、という「確かさ」が残されています。

また、無意識に作られたそれらの形には、そのそれぞれに誰にも意図的に真似をすることができない唯一無二の造形が残されており、人が無意識のうちに作り上げている創造性が宿っています。

Their Breathing 行為の気配



表紙 | 上

Their Breathing
2023/2025
シリコン樹脂、映像

「情景/場景の間」長田区役所／兵庫

神戸市長田区の震災30年関連事業の展覧会。2023年に「下町芸術祭 2023 COMMONS HACK」で長田区全域をリサーチし制作した作品を再構成し、現在の長田を改めて眼差すための作品を制作した。



作品動画



Their Breathing

2024

Room1(左)| シリコン樹脂、映像、テーブル

Room2(右)| 石膏、蛍光塗料、サウンド、家具

協力：グランドホテル六甲スカイヴィラ

「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」六甲山芸術センター／兵庫

Room1 では、深夜から明け方にかけての山上の景色、震災で崩れ使われなくなった道路、ロープウェイの廃駅へと続く道などの映像を六甲山に残された物品から制作した立体作品に照射した。
Room2 では、拾い集めた物品があった場所で録音した音や休業中のグランドホテル六甲スカイヴィラの客室家具などを取り入れた。



作品動画
Room1



作品動画
Room2

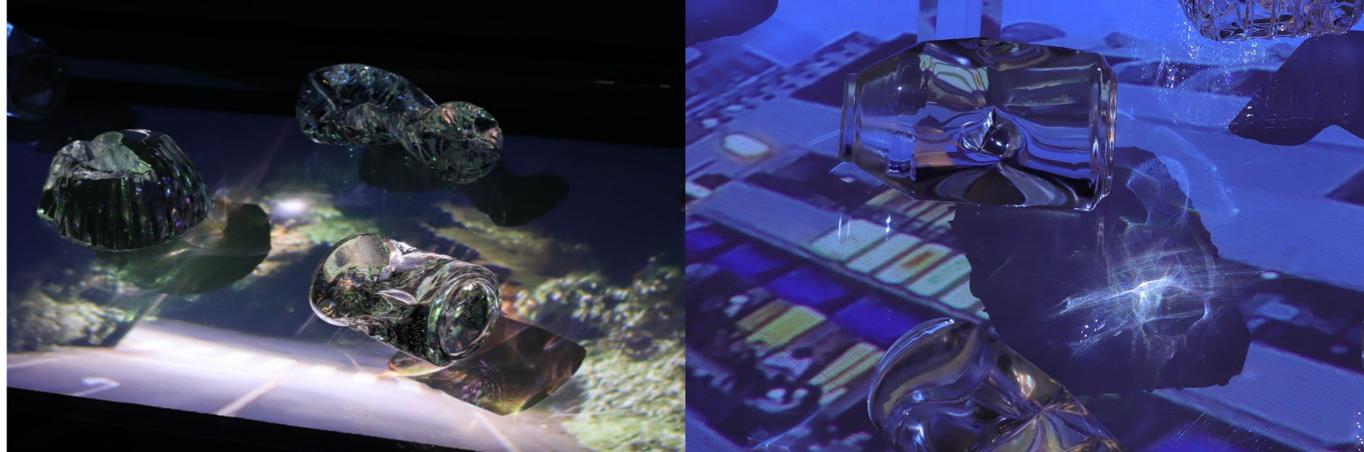


「Their Breathing 行為の気配」について

小畑亮平さんの作品シリーズ「Their Breathing 行為の気配」は、人知れず捨てられた（或いは残された）「物」を収集し、それらの容器の中身（空洞）にシリコン樹脂を流し込み、硬化・結晶化しオブジェとして展示しています。特に「物」として選ばれているのはかつて市場に流通していた飲料品の別の形（不用品）です。また、「物」を採取している様子を本人の主観映像として撮影し、オブジェに投射しています。それ以外のマテリアルとして写真作品も展示されるパターンがあり、当時の「物」が置いていた場所を再現するかのように風景を写真に収めています。その際には、「物」ではなく結晶化したオブジェに入れ替えて撮影しています。空間を構成するその他の物品として、リサーチ対象となった地域や会場に纏わる物（畳や古紙、机や棚など）も多く使われており、それらは時としてオブジェの台座的な位置づけとして存在しています。

作品シリーズを始めたきっかけは、新型コロナウイルス感染症が蔓延して以降の社会現象から着想しており、作品からは当時社会全体を包み込む空気感（個々人の抱える閉塞感や憤りなど）を改めて思い返されます。カラの容器を透明な結晶にするのは、「空虚」「からっぽ」を連想し、容器に滞留する息（空気）は「行き場のない個々人の声」や「コロナ禍による閉塞感（自宅待機、孤独）」「息苦しい」「息=呼吸・命そのもの」のように映ります。それらを結晶化することで、置き去りにされた声や息にも輝きがある・意味があるという眼差しに思えます。それらの声や息を忘却しないためにも作品を制作しているともいえます。既製品の容器を扱いながらも、それらすべて形状がクシャッとねじ曲がっています。経緯はわかりませんが、飲んでた人が握りつぶしたり、捨てられた後に他者にけられて曲がったのかもしれませんが。それらも不満や閉塞感を言い表しているとともに、曲がり方は千差万別であり、十人十色です。それらはある種の「無意識的な創造性」と小畑さんは捉えています。また、「空き缶」というモチーフからは、コロナ禍の「路上飲み」を連想します。「飲みにケーション」の対比として、路上で一人寂しく飲むという行為は当時の在り様を反映しているのかもしれませんが。そして今現在、結晶化されたオブジェに映像（小畑さんの眼差し）を投影することで周囲に虹色の光が乱反射します。これは再生の象徴のようであり、滞留していた息が躍動しこれから新たに時を刻み放たれる瞬間のようでもあります。

「Their Breathing 行為の気配」は、かつて確かにあった「物」を介した交感 / 交換の場（境界）と捉えます。そしてそこには生と死の気配が同居し漂い、微かに揺らめく虹が射しているのです。



※神戸六甲ミーツ・アート 2024 beyond(写真左)、情景 / 場景の間(写真右)に出展の作品を参考

最後に、網野善彦さんは「日本の歴史をよみなおす」でこう書いています。

「たとえば虹が立つと、かならずそこに市を立てなくてはならないという慣習が古くからありました。（中略）勝俣さんは、虹の立つところに市を立てるのは、日本だけではなくて、ほかの民族にもそういう慣習があり、それは虹が、あの世とこの世、神の世界と俗界のかけ橋なので、ここでは交易をおこなって神を喜ばさなくてはいけないという観念があったのではないかと、とっておられます。そしてこれによってもわかるように市場は、神の世界と人間の世界、聖なる世界と俗界の境に設定される、と指摘しておられます。」と述べています 1)。

1) 網野善彦「日本の歴史をよみなおす（全）（ちくま学芸文庫）、2005、57P」より

小國 陽佑 NPO 法人芸法 理事長

1984 年兵庫県豊岡市生まれ、神戸市在住。

長田区駒ヶ林町を拠点に様々な地域活動を通じたアーティストの表現活動の支援を行う。関西を中心とした芸術祭やアートプロジェクトのディレクターを兼任。主なアートディレクションとして、下町芸術祭（2015 ～）、生野ルートダルジャン芸術祭（2020 ～）、学園前アートフェスタ（2020 ～ 2022）などがある。キュレーターとして神戸六甲ミーツ・アート beyond（2024 ～）にも参加。

Their Breathing

2024

石膏、蛍光塗料、広報誌、サウンド、家具、箱

「亀山トリエンナーレ2024」旧田中家住宅／三重

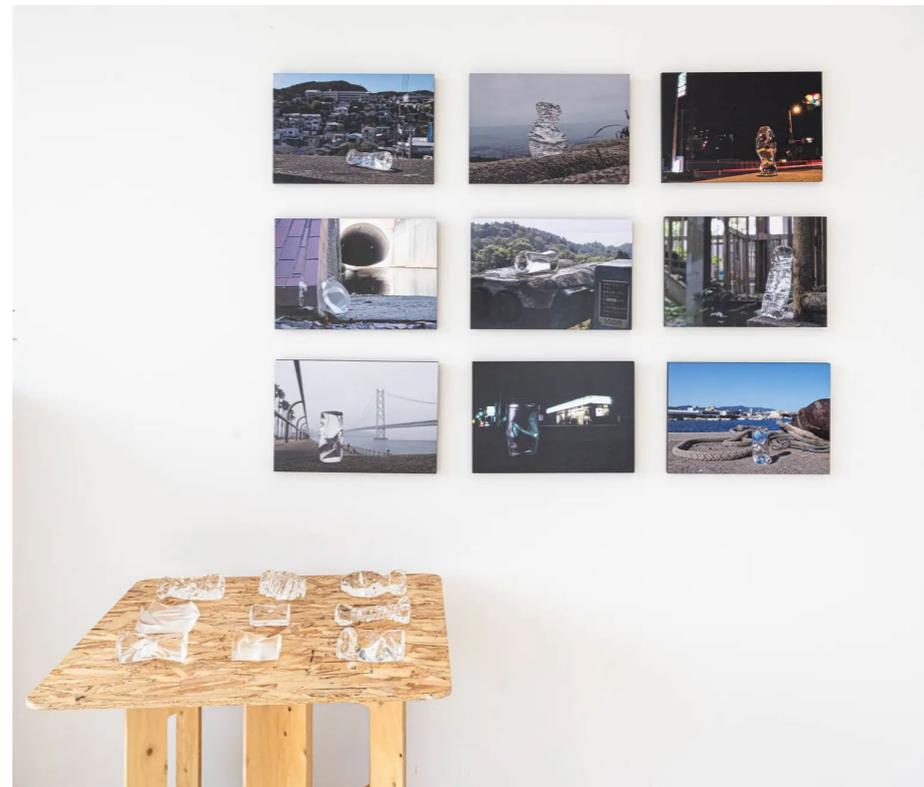
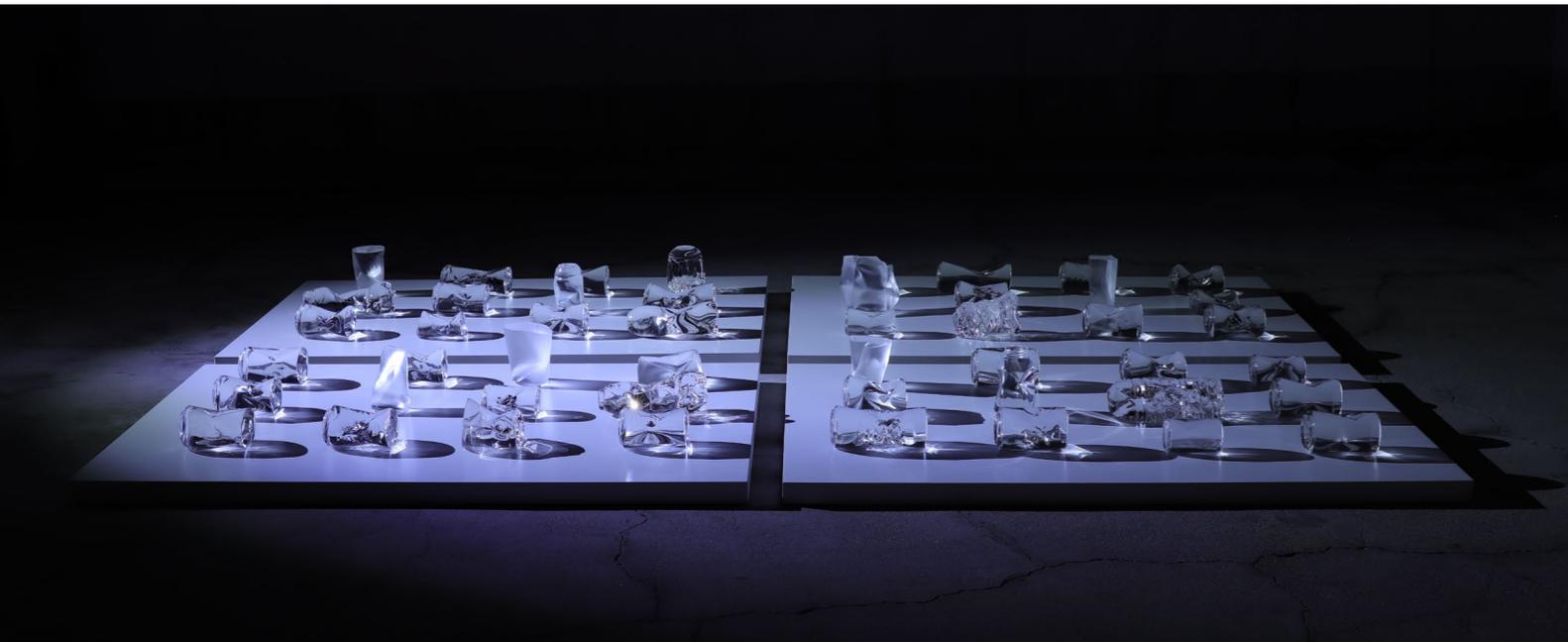
かつて人流・物流の重要な拠点であった東海道の宿場町である亀山宿から関宿間の旧東海道や現在の主要道路沿いを中心にリサーチ活動を行い制作した。高速道路の橋梁の下で聞こえる音やコロナ禍が本格化した2020年～現在までの輸送業界の広報誌なども作品に取り入れた。



作品動画



Their Breathing
2023
シリコン樹脂



行為の気配
2023
シリコン樹脂、銀塩プリント

「COIL Upcycle Art Contest 2023」COIL／山口 | 準グランプリ



廃棄物を用いたアート作品のコンテスト。拾ったごみの形状を写し取った立体作品とそれらを元の場所に戻し記録した写真を組み合わせて展示し、「廃棄物を廃棄する時、そこではいったい何が手放されているのか」をプレゼンテーションした。



Their Breathing

2023

シリコン樹脂、ファウンドオブジェ、銀塩プリント、映像、家具、畳

「下町芸術祭2023 COMMONS HACK」角野邸／兵庫

神戸市長田区全域をリサーチし採集した様々な物品や風景、展示会場である大正時代に建てられた家屋に残されていた家財道具なども作品に取り入れた。



行為の気配

2022

シリコン樹脂、アルミ缶プレス、銀塩プリント

協力：エコ・プラント姫の沢

「ATAMI ART GRANT 2022」ACAO SPA & RESORT／静岡

エコ・プラント姫の沢に集められた空き缶を、リサイクルのためにプレスした塊を作品の台座として使用した。

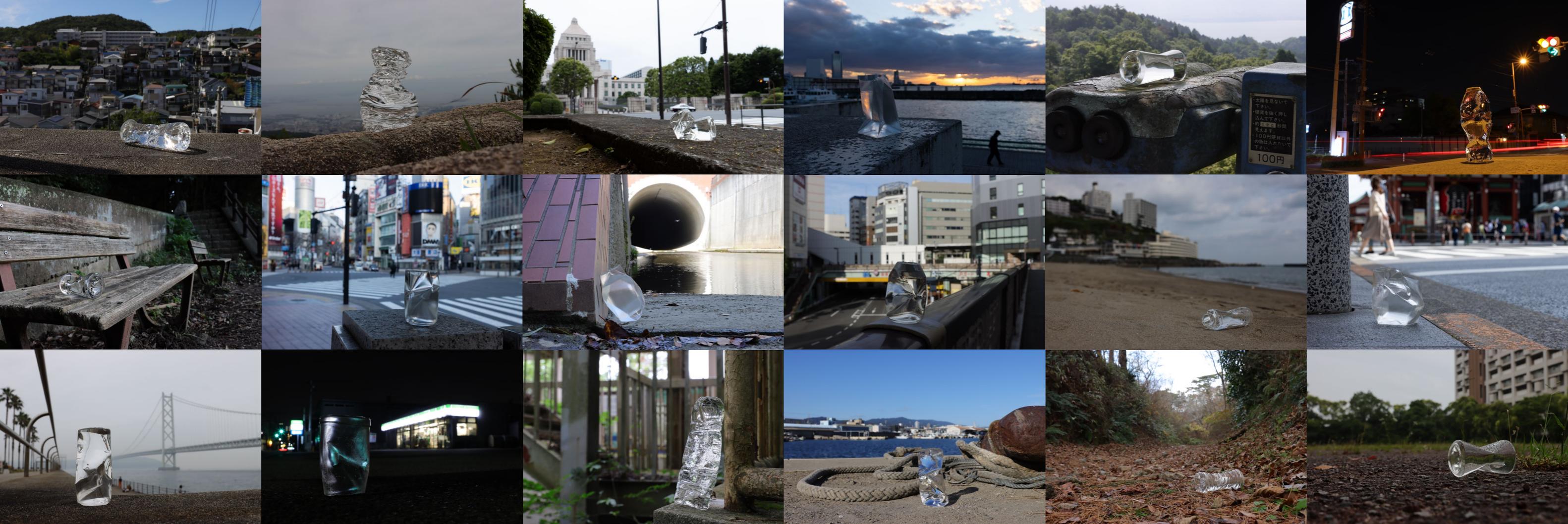
行為の気配（緊急事態宣言中の歌舞伎町）

2021

シリコン樹脂

「ART LIVE KOBE 2021」ANAクラウンプラザホテル神戸／兵庫

2021年の東京オリンピック開催直前の緊急事態宣言期間中の歌舞伎町で採集した物品で制作した作品。



Their Breathing 2020-2025



小畑亮平 Ryohei OBATA

1980 神戸市生まれ
2003 同志社大学文学部文化学科哲学及倫理学専攻 卒業
2019 京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術環境専攻修士課程 修了

<https://ryoheiobata.com/>
info@ryoheiobata.com



近年の主な活動

2025 個展「Their Breathing」city gallery 2320／兵庫
「情景/場景の間」長田区役所／兵庫
2024 「亀山トリエンナーレ2024」旧田中家住宅／三重
「神戸六甲ミーツ・アート2024 beyond」六甲山芸術センター／兵庫
2023 「COIL Upcycle Art Contest 2023」COIL／山口
「下町芸術祭2023 COMMONS HACK」角野邸／兵庫
「SICF24」スパイラルホール／東京
「第4回アートハウスおやべ現代造形展」アートハウスおやべ／富山
2022 「ATAMI ART GRANT 2022」ACAO SPA & RESORT／静岡
「assembly」ジョブ・スペース・ラボ／兵庫
「Any Kobe with Arts 2022」MRSXビル／兵庫
「Crypto Art Fes 2022」Metaverse Exhibition
2021 「ART LIVE KOBE 2021」ANAクラウンプラザホテル神戸／兵庫
「TAGBOAT AWARD SELECTS」阪急MEN'S TOKYO タグボート／東京
「IAG AWARDS 2021」東京芸術劇場 Gallery 1／東京
「第16回TAGBOAT AWARD」渋谷ヒカリエ8/CUBE 1,2,3／東京
2019 「Shanghai Art Fair 2019」上海跨国採購会展中心／上海
「第2回枕崎国際芸術賞展」枕崎市文化資料センター南浜館／鹿児島
「日本の絵画2018」ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル／神奈川
2018 「TRANSNATIONAL ART」大阪府立江之子島文化芸術創造センター／大阪
2017 「アートオリンピック2017」としまセンタースクエア／東京
「日本の絵画2016」ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル／神奈川
2016 「Young Creators Award 2016」MI Gallery／大阪
個展「小畑亮平展」芦屋画廊 Kyoto／京都
「第1回枕崎国際芸術賞展」枕崎市文化資料センター南浜館／鹿児島
2015 「ART OSAKA 2015」HOTEL GRANVIA OSAKA／大阪
「SELECT FAIR NYC」CENTER 548//CHELSEA／New York City, USA

受賞歴等

2023 「COIL Upcycle Art Contest 2023」準グランプリ
2021 「第16回TAGBOAT AWARD」審査員特別賞
2018 「日本の絵画2018」佳作賞
2017 「アートオリンピック2017」入賞
2016 「Young Creators Award 2016」優秀賞
第31回ホルベイン・スカラシップ奨学生
2015 千住博 ザ・スーパー・アートスクール 研究生
2010 「アートムーブ2010」芦屋画廊賞